

創刊110周年記念

# 誇れるふるさと

## 24地区リレー

〈vol.23〉

〈岬① 特徴〉

宇部市の最南端に位置する岬地区は、見初と恩田の両地区に接し、面積は1.71平方キロと市内で2番目に小さい。JR宇部駅や市営バスの発着点となる八王子バス停がある他、山口宇部空港にも近く、公共交通機関に恵まれている。地区南部にはフジグラン宇部、大型家電量販店、ホームセンター、ドラッグストアなどの商業施設が集中し、住環境は整っている。

# 市内最大級の炭鉱、今はフジグラン



炭鉱の跡地にできた市内屈指の商業施設・フジグラン宇部（明神町3丁目）

## 公共交通やスポーツ施設も充実



近代宇部の歴史は石炭とともにあり、岬地区も炭鉱で発展した。明治から大正時代にかけて、沿岸部を中心に多くの炭鉱が創業し、地区内には東見初、沖見初、沖宇部の3鉱があった。中でも1908（明治41）年に藤本閑作が開いた東見初は、渡辺祐策が創業した沖ノ山と並ぶ市内最大級の炭鉱で、すべての

近代宇部の歴史は石炭とともにあり、岬地区も炭鉱で発展した。明治から大正時代にかけて、沿岸部を中心に多くの炭鉱が創業し、地区内には東見初、沖見初、沖宇部の3鉱があった。中でも1908（明治41）年に藤本閑作が開いた東見初は、渡辺祐策が創業した沖ノ山と並ぶ市内最大級の炭鉱で、すべての

- 人口3643人（17位）  
（男性1752人、女性1891人）
- 高齢化率38.43%
- 小学校児童数157人
- ※世帯数などは2023年4月1日現在

### 基本データ

- 面積 1.71平方キロ  
（23位）
- 世帯数1943世帯

炭鉱が閉山した67（昭和42）年まで操業されていた。当時、地区の人口は7000人を超えていたが、閉山後は長く減少が続き、今年4月1日現在、3643人と、最盛期の約半分となっていた。区内の炭鉱跡地には現在、テクノUMG、萩森興産などの工場群、フジグランなどの商業施設が立ち並ぶ。少年野球やソフトボールの試合会場として使われる東部体育広場は、かつての炭鉱社宅の跡地だ。また同広場に加え、民間のスポーツクラブ、フットサル場などスポーツ施設が多数存在。ボウリング場は市内3カ所のうち、2施設を有する。

地区南部には、県漁協宇部統括支店が位置する宇部岬漁港があり、八王子町など漁港周辺は古くからの木造住宅が密集する漁師町。同漁港は1932（昭和7）年に完成後、国の奨励金を受けて37年に始まった修築工事も2年後に終えた。かつてはノリ養殖が盛んで最盛期には200軒以上が養殖に携わっていたが、今では激減。かつて八王子町で酒屋を営んでいた中野真二さんは「漁業だけでは食べていけない。かつて市内他地区に移住した人も多く、空き家が増えて高齢化も進んでいる」と現状を憂えた。

地区コミュニティ協議会の坂井大介会長は「人口減少が進む中で、何世代も地区に住む人、他地区から移住してきた若い家族が入り交じっており、その交流を進めることが大事だと感じている」と語った。